

地域教育情報誌

チュウホク ドット コム
中北.com

中北教育事務所
教育支援スタッフ
TEL 0551-23-3046
FAX 0551-23-3020



中北の地域社会（COMmunity）の心の交流（COMmunication）をめざします

Pickup!

世代がつながる ～げんき夢こども園の「祖父母交流会」～



2月5日、昭和町のげんき夢こども園（宮本知子 園長）で、毎年恒例の祖父母交流会「おもちつき会」が開かれました。県外から足を運んだ方の姿も見られ、この日も多くの祖父母が園に集まりました。子どもたちとふれあうこの行事は、祖父母の方々にとっても、子どもたちにとっても心待ちにしていた行事です。

「最近では家庭で餅つきをすることもないので、子どもにとって貴重な経験ですね。」という声も聞かれました。

三世代の力がひとつに

当日は約20名の保護者も参加し、行事を支えました。お母さんたちは前日にもち米を洗い、当日の朝には配布用のお餅をパック詰め。お父さんたちは、会場を整えます。大人たちの思いに見守られながら、朝から胸を弾ませていた子どもたちは、祖父母と一緒に杵を握りお餅つきに挑戦です。「ヨイショー！」のかけ声が響く中、つきたてのやわらかいお餅ができあがっていました。

地元の恵みを

この日は、園の給食に有機栽培のお米を届けている地域の生産者の方も参加していました。今回の交流会にも、もち米を提供しています。「未来ある子どもたちには、地元の自然が育んだ食材で元気に育ててほしい。『おいしかった！』という声が私の励みになります。」と温かい思いを語ってくれました。



笑顔あふれる

つきたてのお餅をほおぼる祖父母と子どもたちの顔には、笑みが広がりました。その様子を見守る先生方と保護者の皆さんの表情も自然とほころびます。子どもたちを中心に、あたたかな空気に包まれた一日となりました。

Pickup!

手作りで迎えるお正月

～山城小学校の「親子しめ縄飾り教室」～



12月7日、山梨県社会教育振興会の体験交流事業の一環として、山城小学校（砂長 完郎 校長）にて「親子しめ縄飾り教室」が開かれました。集まったのは4年生以上の児童とその保護者。定員30名に対し50名もの応募があり、大盛況でした。

講師を務めたのは、退職された校長先生方を中心とする峡中地区社会教育の会の皆さん。しめ縄飾りの歴史や一つひとつの飾りに込められた意味を丁寧に説明しながら、作り方を実演しました。



親子で挑戦！

最も難しいのは、わらで縄をなう工程。8本のわらを束ね、それを3本作って縄にしていくには、“コツ”が要ります。親子で声を掛け合いながら試行錯誤です。作業が進むにつれて仕上がりにこだわりが出てきて、子ども以上に熱中する保護者の姿も見られました。（親子活動あるあるですね！）

「できた！」

最後に松竹梅の飾りをつけて完成！できあがったしめ縄飾りを手に、満足そうな笑顔を見せる子どもたちでした。

参加者からは「家族と作って楽しかった」「飾りの意味を知って、より大切に感じた」などの感想とともに、「お正月が楽しみ」という声も聞かれました。



家族で迎えるお正月に

講師を務めた窪田包久さんは、飾る時期や保管の工夫（黒いビニール袋に入れると、わらの色が長持ちするそうです）などのアドバイスを添えながら、「親子で作ったしめ縄飾りを、長く大切にしてください」と語りました。

今年のお正月、山城小学校の校区には、手作りのしめ縄飾りがたくさん飾られていたことでしょう。日本の風習に触れ、家族で過ごすお正月を思い浮かべる——そんな心温まる時間となった教室でした。



Pickup!

未来を描く中学生たちの挑戦

～竜王北中学校3年生の「甲斐市への提言発表会」～



12月3日、竜王北中学校（青柳 香 校長）の3年生が、総合的な学習の時間で進めてきた「甲斐市の未来を考えるプロジェクト」の中間発表会として、『甲斐市への提言発表会』を開催しました。

このプロジェクトは、「自分たちの住む甲斐市をより良い街にするには？」という問いを出発点に、課題を見つけ、解決策を考える探究的な学習です。

発表会には、甲斐市教育委員会の内藤和彦教育長も出席されました。発表グループは、クラス内発表で選ばれた精鋭たち。甲斐市の現状と課題、そして自分たちの提案を堂々と発表しました。



現状から生まれたアイデア

交通に着目したグループは、市民アンケートや環境負荷の視点から「自家用車から公共交通機関への転換と電車やバスの増便」を提案しました。

効率的なまちづくりを考えたグループは、商店や医療機関、公共施設を集約し、それらを公共交通で結ぶ「コンパクトプラスネットワーク」によるまちづくりを提案。

さらに、甲斐市に商業施設が少ない理由を開発の歴史から分析し、「商業施設誘致による街の活性化策」を提案したグループもありました。

どのグループも、データをもとに、様々な視点から甲斐市の現状を丁寧に分析し、未来を見据えた提案を力強く語りました。

成長が芽生えたとき

発表後の生徒たちは、大勢の前で自分たちの考えと研究の成果を発表できたことに、自信をつけた様子でした。

「日常の当たり前に目を向けることが大切だと思った」「甲斐市の良さに改めて気づけた」といった声が聞かれ、学んだことをこれからの行動につなげたいという前向きな思いを語ってくれた生徒もいました。

中学生ならではの柔軟な発想と、地域の未来を良くしたいという熱意が会場に伝わってきた発表でした。



教育長からのエール

内藤教育長は、提言にしっかりと具体性があることを評価し、「提言には、自分の行動宣言を加えることが大切」とアドバイスしました。また、「意見を発信し、話し合うことの大切さをこれからも体験してほしい」と生徒たちに温かいエールを送りました。

今回の経験は、これからの社会を生きる生徒たちにとって、大きな学びとなったことでしょう。柔軟に考え、自分たちで答えを導き出す力を着実に育てている中学生たちの姿が、そこにはありました。



「声掛け」か「言葉掛け」か

令和7年度中北地区地域教育推進連絡協議会委員
甲府市高等学校PTA代表
山梨県立甲府昭和高等学校PTA会長
渡邊 修 さん

3年間のPTA活動の中で、研修会や講演会等何回か参加させていただき考えさせられる内容が多々ありました。ある講演会で、このようなお話がありました。「子供達が楽しみにしていた延期のない行事やイベント中止時にどのように対応しますか・・・。」「中止は残念。」「しょうがないね。」等当たり障りのない言葉もありますが、「挑戦できず残念。」「次の目標、挑戦は何にする。」に変えてみると、全然印象が違います。講演会の中では、「前向きになる言葉」が重要と解説していました。また、今の学生・社会人の若者に「頑張れ」という言葉よりどんな言葉を掛けられるとよいか尋ねた話もありました。「カッコいい」「素敵」など、昭和世代には意外でちょっとついていけないかと思いましたが、確かに悪くはなく「なるほどなあ。」と納得もしました。

講演会の中で、「声掛け」とは言わずに「言葉掛け」という表現がありました。応援する言葉一つ選ぶにしても、「親」「経験者」「指導者」「先生」「先輩」「友達」等、誰が、今どのような状況・立場でどのような思いを伝えるか明確になっていけば、『適切な言葉選び』ができる。適切な言葉を用いた「言葉掛け」をすることで、相手に前向きになる良いイメージを連想させる事が大事とも解説していました。進級・進学・就職などいろいろな会話を持たれる際、話の意図するところが何なのか最後までしっかりと聞いてから「言葉掛け」をするという些細なことについての話ではありますが、今後、何かの御参考にさせていただければと思います。多種にわたる研修・講演会参加で多くの気づきがありました。また出来た事に感謝いたします。

Pickup!

中北地区地域教育推進連絡協議会 研修会

北杜高校生 実践発表

「北杜高校 自然と向き合う私たちの取り組み」

山梨大学 田中 健史朗 先生 講演会 「悩みとの付き合い方

～あなたができること わたしができること～

1月22日、敷島総合文化会館で「第2回 中北地区地域教育推進連絡協議会 研修会」が開催されました。今年度2回目となる今回も、教員や教育委員会関係者、保育所職員、保護者など、多くの皆さんが参加しました。



冒頭では、昨年度、脱炭素チャレンジカップで環境大臣賞を受賞するなど、精力的に活動している北杜高校 総合学科生物資源系列の3年生が実践発表を行いました。生徒たちは、授業で1年間取り組んだ農場の鳥獣害対策プロジェクトについて、データを用いた現状分析や対策を堂々と報告しました。探究心にあふれた学びと自信に満ちた発表は印象深く、会場には盛大な拍手と多くの称賛が広がりました。

続く講演では、山梨大学教育学部の田中 健史朗 准教授が、近年の不登校やいじめ、若年層の自殺の増加に触れつつ、人はそれぞれ感じ方も持っている力も異なることを前提に、大人が“見える結果”だけでなく、子どもたちの“見えない頑張り”に目を向けることの重要性についてご講演くださいました。

カリキュラム・オーバーロードの中で日々を過ごす子どもたちにとって、「受け入れられている」「認められている」と実感できることこそが、自己肯定感を支える力になると強調され、参加者に深い気づきを与える講演会となりました。



紙面を飾ってみませんか

地域教育情報紙『中北.com』は、年6回、奇数月に発行し、中北地区500か所以上に配付しています。学校や地域、諸団体での様々な取り組みを、ぜひ取材させてください。問い合わせは右記までお気軽にお声がけください。

令和7年度 『中北.com』 No. 6
編集・発行 中北教育事務所
担当 花形 健一・江川 みづほ
〒407-0024 韮崎市本町4-2-4
電話 0551-23-3046

